

# 英 語 科 学 習 指 導 案

日時 平成26年7月2日(水)  
場所 久慈市立大川目中学校 2年教室  
対象 2年英語アドバンスクラス  
(男子3名、女子5名、計8名)  
授業者 教諭 島川 厚志

## 1 教材名

PROGRAM 3 「Charity Walk」 (開隆堂 Sunshine English Course 2)

## 2 教材について

### (1) 単元内容

チャリティーとは慈善の精神から行われる活動や団体のことで、その多くが寄付や自分たちの持ち出しで行われる。本課で取り上げている Charity Walk は、参加者がその大会に参加費を払い自分たちも「歩く」という行動によって、他の人々や団体を援助していく参加型のチャリティである。ここではその意義について学びこのような活動が日本でも世界でも広く行われていることを知り、たとえ規模が小さくとも自分たちも社会に貢献できることを感じ取ることができる。

文法事項においては、義務や命令について述べる must、必要性や義務を表す have to、及び接続詞 that を用いて自分がどう思うかを表す think that の文とその構造を学習することになっている。義務や自分の考えなどについて言うことはコミュニケーション場面では大切なことであり、コミュニケーションの幅が広がることを期待できる。

### (2) 生徒の実態

2年生は、基本的な授業規律や学習に向かう姿勢が身に付いており、英語学習に対してどの生徒も前向きに積極的に取り組んでいる。平成25年度岩手県学習状況調査結果においても、平均正答率が70%こえており、理解力の低い生徒も少ない。そこで、更に個々の英語力を伸ばしていくために、特に英語が得意な生徒の力をよりのばしていくことに主眼をおき、能力別少人数指導を実施している。アドバンスクラスでは、全体的に新しい事柄などに対する関心が高く、生徒同士大変仲がよく、グループで盛り上がり反応もよく学習意欲が高い。

### (3) 指導の構想

義務や命令について述べる must や必要性や義務を表す have to は理解しやすいように絵を用いたり、日本の習慣と外国の習慣とを比べて、その違いを発見させながら導入していきたい。否定形の must not 「~してはいけない」と don't have to 「~する必要がない」の意味の違いは混乱を起ししやすい。毎日の生活の中から「しなければいけないこと」「してはいけないこと」「する必要のないこと」を見つけて、常に表現活動を取り入れて使い方を定着させていく。接続詞 that に於いては I think that ~の構文を用いて、自分の考えを理由を付けて述べ、お互いの意見の交流ができる場にしていきたい。また that 構文の応用として know that~, hope that~ understand that ~の使い方まで発展させたい。

#### (4) 授業の視点と手だて

##### 視点1 「学びの連続」ー基礎的な知識・技能の確実な定着

- ・外国語学習で必要なこととして言語のルールや語彙、表現が頭の中からすぐ取り出せるようなところまで自動化されているか否かがあり、これはコミュニケーション能力そのものである。自動化するには繰り返し練習しなければならない。授業の中で、様々な形式の繰り返し練習することで、コミュニケーション能力の獲得に繋がっていくと考える。

##### 視点2 「学びの空間」ー教材・教具の工夫

- ・コミュニケーションを行う場面を多く設定することが必要となる。生徒の意欲を高める工夫については、絵や写真等を使った教材の活用が考えられ、これらの教材はデジタル化しICTを利用することによって、様々な提示の仕方が可能になる。また、Rapid Reading（あらかじめ決められた時間で読む）や Recitation（暗記）などのReading活動が実際繰り返して学習していることを意識せずに、より効果をあげるのに役立っていると考ええる。

##### 視点3 「学びの共有」ー思考を促す場面の設定

- ・生徒同士が自主的にかかわる活動において、大切とされる生徒の「学習意欲」を引き出すために、生徒の『興味・関心』を高め、活動に対する見通しをもたせることを考えた。そこで単元毎に教科書の本文を参考にした表現活動（speaking）を行っている。ペア活動やお互いの発表を評価し合うことで、かかわり合いがうまれ、既習の表現を用いて声に出して積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られうようになっている。

#### 3 単元の目標

- ペアやグループ学習を通してお互いに協力し学習しようとする態度を養い、コミュニケーション活動に取り組む姿勢を育てる。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 「しなければいけないこと」や「してはいけないこと」「する必要のないこと」や「~だと思ふ」などを、適切な英語を用いて書いたり話したりして伝えることができる。  
(表現の能力)
- 全世界で展開されている慈善活動の趣旨・内容について知り、わかったことを報告できる。  
(理解の能力)
- 場面に応じて適切な助動詞を選択したり、文の形を変えるなどの言語操作が正しくできる。  
(言葉や文化についての知識・理解)

4 単元計画 (全7時間)

時	学習内容	評 価					
		関	表	理	知	評価規準	評価方法
1	・ must を使った文の形・ 意味・用法の理解	○			○	・ must を使って積極的に話そうと している。 ・ 語順を理解して正しく書くこと ができる。	観察 ワークシート 自己評価カード
2	・ Part1の内容理解と音 読練習 ・ must の復習		○		○	・ 書かれた内容について正しく読 み取ることができる。 ・ 単語や文を正しく音読したり、 音のつながりや消失を意識し音 読することができる。	発表 自己評価カード
3	・ have to を使った文の 形・意味・用法の理解	○			○	・ have to を使って積極的に話そ うとしている。 ・ 語順を理解して正しく書くこと ができる。	観察 ワークシート 自己評価カード
4	・ Part2の内容理解と音読 練習 ・ have to の復習					・ 時、場面、状況を理解し正しく 読み取ることができる。 ・ 単語や文を正しく音読したり、 音のつながりや消失を意識し音 読することができる。	発表 自己評価カード
5	・ that を使った文形・意 味・用法の理解	○			○	・ that を使って積極的に話そうとし ている。 ・ 語順を理解して正しく書くこと ができる。	観察 ワークシート 自己評価カード
6	・ Part3の内容理解と音 読練習 ・ that の復習		○		○	・ 時、場面、状況を理解し正しく 読み取ることができる。 ・ 単語や文を正しく音読したり、 音のつながりや消失を意識し音 読することができる。	発表 自己評価カード
7	・ Program3のタスク活動 ・ must ,have to , thatの 復習  (本時)	○			○	・ 学んだ表現を使って積極的に話 そうとしている。 ・ 場面や状況に応じて英語で適切 に話すことができる。	発表 ワークシート 自己評価カード

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ 文法問題的な理解だけに終わらず、場面や状況をきちんと理解する。
- ・ 2年生までに習った表現を英語でできるだけ多く発話できるようにする。

(2) 評価

- ・ 正解、不正解を問うよりも、文にして発話できる経験を積むことを評価の対象とする。
- ・ 場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる。

(3) 準備物

写真、ワークシート、自己評価カード

(4) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意事項	授業の視点
導入 7分 13:52	1 帯学習 ・ 単語106復習 ・ 掲示板の内容を英語で表現する。	・ 連続（単元を通して）ペア活動を通して既習の復習を行う。 ・ 単語の復習や既習の英文法を用いた表現活動を行う。	連続2  連続2
展開1 12分  14:04	2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">コンサートに関する対話文を条件に合わせて、作って発表しよう。</div> 3 Pattern Practice ① オーバーラッピング （音声に合わせて同時に読む） ② シャドーイング （音声の後をすぐ追って読む） ③ イメージリーディング （写真を見ながらイメージして読む。） ④ アクティング <b>(カット?)</b> （ペアで場面、状況をイメージして読む）	・ 意味・場面をイメージしながら読めるように練習させる。  ・ 相手に伝えることを意識して話させる。	連続1  連続2 空間4
展開2 18分 14:22	4 タスク活動 ・ タスクに従って会話をする。 ・ ペアで会話を振り返り、会話文を完成する	・ 教科書の英文を参考にしながら、与えられたタスクに従い会話をさせる。	共有6
終末 13分 14:22	5 発表 6 まとめ	・ ペアで発表する。 ・ 生徒同士の発表を聞き合い、お互いの読み方を評価し合う。	共有7